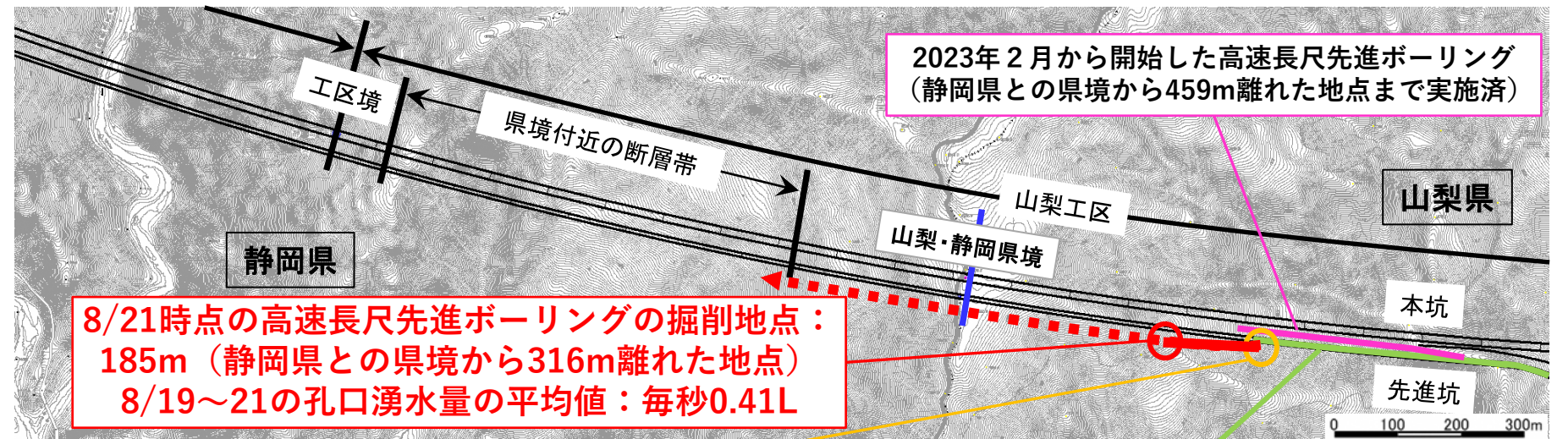


山梨県側から静岡県内に向けた高速長尺先進ボーリング

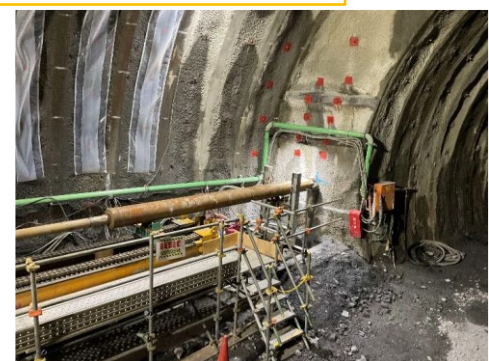
○山梨県内のトンネル(先進坑)からの高速長尺先進ボーリング調査により、静岡県側の地質・湧水の情報事前に収集。令和5年2月21日より開始。令和5年10月2日から定期メンテナンスを実施し、令和6年5月20日より再開。

(参考) 高速長尺先進ボーリングについて
JR東海とメーカーで共同開発した、トンネル掘削に先立って地質確認のために高速・長尺で行われるトンネル切羽前方を調査するためのボーリング調査。(直径約12~35cm、トンネル前方約500~1000m程度の区間を精度よく調査、平均日進10m程度)

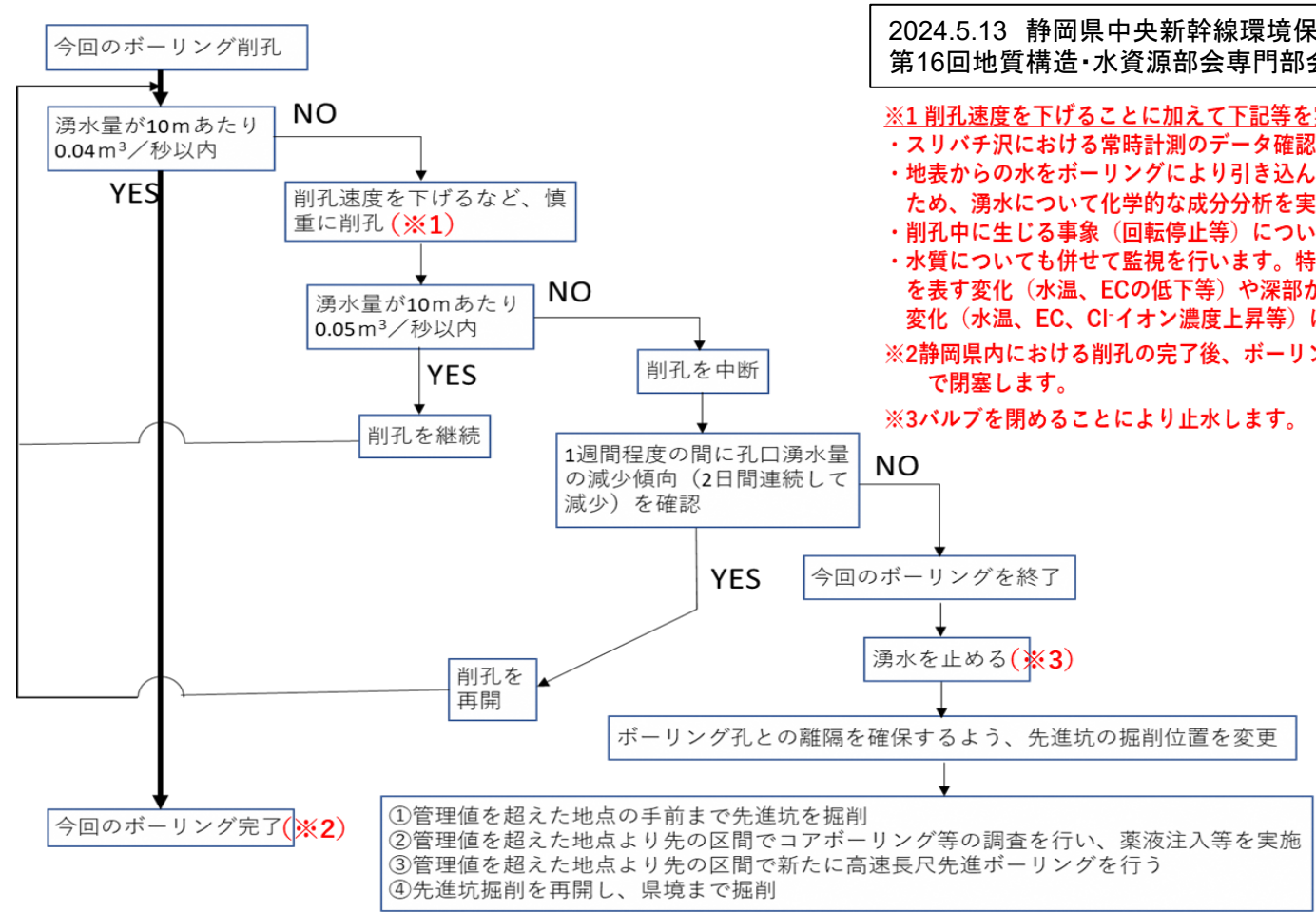


5/20に高速長尺先進ボーリングを再開した地点
(静岡県との県境から501m離れた地点)

先進坑
(静岡県との県境から478m離れた地点まで実施済)



高速長尺先進ボーリングにおける調査中の管理フロー



2024.5.13 静岡県中央新幹線環境保全連絡会議
第16回地質構造・水資源部会専門部会 資料2-1より

- ※1 削孔速度を下げることに加えて下記等を実施します
- ・スリパチ沢における常時計測のデータ確認の頻度を増加します。
 - ・地表からの水をボーリングにより引き込んでいないか確認するため、湧水について化学的な成分分析を実施します。
 - ・削孔中に生じる事象（回転停止等）についても報告します。
 - ・水質についても併せて監視を行います。特に地表からの水の引込みを表す変化（水温、ECの低下等）や深部からの水の引込みを表す変化（水温、EC、Cl⁻イオン濃度上昇等）に着目します。
- ※2 静岡県内における削孔の完了後、ボーリング孔を県境付近で閉塞します。
- ※3 バルブを閉めることにより止水します。

【岐阜県の事象を踏まえた今後の高速長尺先進ボーリングに関する対応として以下を実施（令和6年6月4日付 静岡県中央新幹線対策本部長宛文書『岐阜県内で発生した井戸等の水位低下の事象を踏まえた高速長尺先進ボーリングの対応等について（ご回答）』より）

- ① 県境に近い区間でボーリング調査を行っている間、常時計測を行っている田代観測井において、現地に出向く回数を1カ月に1回から、2週間に1回に頻度を増やし、地下水位のデータを確認します。
- ② 田代観測井で水位低下の傾向が確認された場合には、速やかに静岡県に報告するとともにスリパチ沢の流量を確認します。この場合やボーリング湧水量についてこれまでと異なる傾向を示す場合には、スリパチ沢の流量、田代観測井の地下水位の確認頻度を1週間に1回に増加させます。なお、ボーリング湧水量の傾向の判断に当たっては、静岡県や専門部会委員のご意見もお聞きしていきます。
- ③ 水質や地下水位の変動傾向を併せて確認し、専門家を含む関係者に対応をご相談し、その結果を踏まえて対応します。また、降雨等も考慮のうえで地下水位の低下に伴うスリパチ沢の流量の減少が確認される場合には、一旦ボーリング湧水を止めたうえで、ボーリング湧水と地表水との関連性を把握するために地下水の化学的な成分分析を実施します。なお、流量や地下水位の確認は現地に出向いて実施していますが、通信を利用した確認についても今後検討していきます。
- ④ 県境に近い区間をボーリング調査している間は、ボーリング湧水量、水質は毎日、静岡県に報告します。スリパチ沢の流量、田代観測井の地下水位は確認次第、速やかに静岡県に報告します。また、地下水位の低下やスリパチ沢の流量減少を確認した場合も速やかに静岡県に報告するとともに、専門家を含む関係者に相談します。